

釣れ釣れなるままに

2007年思い出の釣行記 PART. 6

シヤケを磯竿で



鹿島釣狂

☆入 釣 日 平成19年09月15日
☆入釣場所 増毛海岸
☆天 候 晴れ、微風、凧
☆釣 果 シャケ(雄) 770 mm 1
660 mm 1

スリル感

奈井江町で、町民の手による作品展があった。足を運んでみると、幼児を含む子どもたちのかわいい作品からご老人の秀作まで、絵画や書道、陶芸などが会場いっぱいに表示されていた。フンフンと肯きながら見入っている途中、ある作品の前で足が釘付けになってしまった。魚拓が貼られていたのだ。墨をたっぷりと付けて、黒々と刷り上げられたシャケの魚拓は、今にも額の中から跳ね出してきそうな勢いがあった。

昨年、初めてシャケ釣りに手を染めた。シャケ釣りの混雑さを聞いていたので手を出せずにいたのだが、仲間からの魅惑的なお誘いに加えて、北海道に住む釣り人の端くれとして、シャケの手応えを感じておきたかったのだ。昨年は3回の釣行で4本のシャケを手にすることができ、一応の目的は達した。釣り場の確保では苦労したが、簡単に釣れてしまったというのが実感である。リールのドラグ性能などは全く関係ない。コツコツとした小さなアタリの後、一気に竿を伸す手応えには一応満足しているが、その後のやり取りでウムを言わず強引に抜きあげてしまうことが気に入らない。このシャケ釣りを、釣り人の誰もいないところで、1号程の磯竿と1号程のナイロン糸でやり取りをしながら釣上げてみたいものだ。波打ち際で糸を切られないようにとやり取りするスリルがたまらないと思うのだ。シャケ釣りにヤマメ釣りの繊細さがほしい。溪谷に分け入り、己の気配を悟られないようにそっと川筋に近づき細糸を送る。ピンと張った糸から伝わってくるヤマメの就餌を感じ、瞬時に手首を返す。一瞬の間にかけるそんなドキドキ感がたまらないのだ。

私有地につき有料

しかし、シャケがルアーを啜って一気に疾走する逆鱗を味わいたくて、今年も出かけることにした。釣り場は混雑が予想されるので、午前2時には起床して、3時半には増毛に着いた。橋の袂の駐車帯は隙間が無く、さらに500m程進んだ大きな駐車帯に車を置いて河口に向かった。右岸では先行者7名が夜明けを待ってたむろしていたので、その端に場所を確保する。新十津川町から一足先に来た釣り人と挨拶を交わす。

「今年はおホーツク紋別でのカラフトマスが絶好調だった。カラフトマスが終わり、最近では毎週のようにここに来ているが、未だ釣果なし。この辺では浜益にあるいくつかの河口も有望である。道糸はより糸1.2号を使っている。仲間は0.8号を巻いているが問題は無い。」と話してくれた。その間にその仲間が入り、右側にも後に来た釣り人が順に入っ

た。ブッコミの3名を挟んで更に奥の方にも釣り人が並んだ。

4時半、まだ辺りは薄暗いがウキにケミカルライトレギュラー赤を付けてエサ釣りで開始した。しかし、アタリは一向に出ず、1時間後にはウキルアーに交換していた。ウグイのアタリがあるだけでシャケが釣れる気配は全く感じられない。昨年、釣行の度にご一緒した釣り人に聞いてみるが、川にもシャケが上った形跡がないということだ。今日は見込みがないのだろう。

6時半、新十津川の御仁に聞いた河口に移動してみる。河口に向かう道路の入口に「私有地につき有料」の立て看板があったが無視して進んだ。河原には10台ほどが駐車しておりその横に車を停めた。すると、すぐにご老人が近づいてきてあいさつを交わす。シャケの状況を聞くと、「昨日は2本あがったが今日はどうか」と頼りない。そのご老人に駐車料金を請求されたので500円を支払う。「昨日から入っている車が3台残っているが、あらためてはもらっていない。あんたもいつまででも駐めてていいよ」と小屋の中に消えていった。

左岸から右岸へと川を渡ろうと試みるが、川の流れがきつくて断念する。上流に架かった橋を渡っていくと、道路脇に沢山の車が駐めてあったが、引き上げた釣り人がいたのか、ちらほらとスペースがある。道路脇でもよかったのかなと思うが、500円分の駐車料金に見合うだけ頑張ろうとも思う。河口には15名ほど（右側に10名、左側に5名）の釣り人がいたが、引き上げていく釣り人もおり「朝方、河口で1本あがっただけで全然だめだ」と知らせてくれる。河口に行ってみるとその1本のシャケを持った釣り人も引き上げるところだった。

その1本を見たことで、望みを全く絶たれたわけではないと河口中央でウキルアーを飛ばした。昨年釣果のあった必殺のアワビオレンジである。しかし、そう簡単に釣れるものではない。

フライで

9時、河口右岸の流れ込みでルアーを頻りにチョイ投げしている釣り人がいる。よく見るとその付近にシャケの背ビレが見えた。今では釣り人も少なくなっていたのですぐ隣に移動して、ウキフカセをチョイ投げする。波間にシャケの影を確認した直後に、ゴツゴツと前アタリが出る。ギューンとシャケ独特の引き込みで竿を煽るとかかった。ギューッ、ギューッとハリをくい込ませてからは、ゆっくりと取り込んだ。オスシャケでメジャーを当てると77cmを差していた。この界限では朝から2本目のシャケを手にしたのだ。

私のすぐ横にフライマンがやってきた。ハンチング帽をかぶって「いかにも」の出で立ちである。フライはさほど飛んではないのだが、盛んにフライを振り込んでいる。そのフライマンにシャケがかかった。私は竿を上げて応援する。彼はシャケのファイトに手こずっていたようだったが、最後には道糸をもって強引に取り込んだ。リーダーの番数を聞けなかったが、かなり太いものを巻いているようだ。フライを覗かせてもらおうと、チヌ針

8号に兎の毛（茶）、テールにゴールドシップ（赤）を巻いたものである。続けて、もう1本かけて、同じ様に取り込んだ。彼のその姿が気になって眺めていると、表層を漂う赤いフライに向かってシャケがフワッと浮いてきて、バックリとくわえ込んだ。シャケはそのフライを何だと思ってくわえ込んだのだろう。オキアミだろうか？そのシャケは残念ながら取り逃がしてしまったがラインが切れたのではなく、ハリがはずれたものだった。

磯竿で

正午、そのフライマンも引き上げ、釣り人も居らずガランとした状態なので、車に戻ってソイ釣り用に使っている2号の磯竿を引っ張り出した。リールもフロートライン2号を巻いたものだ。シーガーエース4号のハリスに畑山式タコベイトバリを付けた。エサはソーダーガツオのやわらかい部分を使い切っていたので、エラ近くの固い部分しか残っていない。それを付けてチョイ投げする。

そのウキの付近をシャケの背ビレが横切った。直後にコツコツとアタリが出て、道糸をフラットにするとウキがスッと消し込んだ。手首を返すと一気にウキが疾走する。ジー、ジーとリールのドラグが音を立てる。竿や道糸が頼りないのでリールのドラグ性能を甘めに設定していたこともあり、シャケが沖に向かって縦横無尽に疾走する。辺りの釣り人は誰もいなくなっていたのでシャケの動きに任せることができる。たっぷりと時間をかけてスリル感を存分に味わった。少しずつドラグを締めながら、波打ち際へ寄せた際には、シャケはすでに力を使い果たして横になりぐったりとしていた。銀ピカのオスシャケ6.6cmだったが、こいつにはシャケ釣りの醍醐味を十分に味わわせてもらった。

朝まずめや夕まずめの混雑を避けて、昼間でものんびりとシャケ釣りが楽しめるのだ。しかも、誰はばかることもなく磯竿でのスリルを味わえるのだ。冒頭に書いた理由でシャケ釣りに手を染めた私だが、なんだか磯竿でのシャケ釣りが病み付きになりそうである。

【つれづれ】

○帰宅後、すぐに風呂に入ってからシャケをさばいた。市販されているサーモンは、生では食あたりするので、超低温にまで急速に冷凍したものだと言っている。しかし、あまりにも活きがよいので刺身で食べられないかと2切れほどを口に入れてみる。決して旨いものではなかった。何だか嫌な気持ちで就寝すると、真夜中に目が覚めてしまった。胸がむかむかするのだ。その場ですぐに吐いたのだが、その後しばらく、胃の調子の悪い日が続き、自分の判断の甘さを痛切に感じるようになった。

○駐車場に着くと、2名の釣り人が「おじさん」と話し掛けてくる。同年代のようだが……。古平に行ったが駄目で、ここに様子を見に来たとのことである。随分と遠くにまで移動できるものだ。釣ったシャケを見せて状況を説明する。

○浜益海水浴場にあるみさき食堂によった。元祖浜ラーメンの旗がはためいている。浜ラ

一メンとイクラ丼セット1700円を注文したが、その浜ラーメンは旨くなかった。

14:30 帰りには睡魔が襲う。北幌加小学校跡地の駐車帯で仮眠する。

☆入釣日 平成19年09月23日

☆入釣場所 箸別川河口 幌川河口

☆天候 晴れ、微風、波高し

☆釣果 なし

23日

14:30 新十津川経由で幌川河口に向かう。

16:00 河口の流れ込みには5名。河口に近いところでブッコミの釣り人2名。その間に場所を確保し明け方まで待つ。

河口では5名ほどがルアーで打ち込んでいるが、波が高くて釣りにならない様子。

河口とブッコミの間でウキフカセ釣り。ウキには赤の37mmケミカルライト。視認性はよい。すぐにブッコミの方へウキが流されてしまうので、あずましくない。

波が少し治まっているさらに左へ移動し、ウキフカセとウキルアーを交互に試すが魚がいない様子。高い波頭にもサケの姿は全く見えない。付近では結局1本もあがらない。

先週のフライマンが来たが、波が高くて、フライを断念。さらに、ルアーに持ち替えたが結果は出ず早々に引き上げた。

7:00 河口を渡って駐車場に戻り、箸別川へ向かう。

箸別川では橋の入口の駐車場が開いている。早々に引き上げたのだろう。河口に行くと、グループが竿も出さずにたたずんでいる。朝方1匹だけあがったという。1名だけがルアー一竿をふっている。河口(川?)ではフライマンが3名。

河口右に入り、ウキフカセで狙うが駄目。さらに右に移動しやってみるが駄目。

10:00 引き上げる。セイコーマートでラーメン。雨竜の道の駅で仮眠しようと駐車した。コーヒーを飲むと目が覚めてきた。帰宅。風呂。

☆入釣日 平成19年10月7日

☆入釣場所 箸別川河口 幌川河口

☆天候 晴れ、微風、風

☆釣果 なし

2:00 起床

3:30 箸別川 右岸に先行者8名ほど その左に場所を確保

4:30 ウキフカセで。夜明け後、シャケ3本(ウキルアー2 ブッコミ1)型が小さい

- 7 : 0 0 はねも見えず。釣果なし
- 8 : 0 0 幌川 先行者は引き上げたようで明け方に3本あがったという。
- 1 0 : 0 0 跳ねた 粘るもむなし。隣人が掛けるも取り逃がす。
- 1 2 : 0 0 終了